
返事

はしもと なおや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

返事

【コード】

N7256Q

【作者名】

はしもと なおや

【あらすじ】

手紙によるプロポーズの話です

圭へ

私は死ぬと思う。

こう文字にすると文学的ね。ええ、私、死ぬの。死因？なんだろうね、自殺だったり交通事故だったり、もしかしたらあなたに殺されるのかも。でも、そう。私は死ぬの。私が思う最高に幸せな死に方って何だと思う？私はね、好きな人に殺されるのが一番幸せだと思う。

だから、さつき「もしかしたらあなたに殺されるかも」っていうのは半分本気なわけ。病気なんてものに殺されたら納得できないじゃない。まあ自殺っていうのもありだけど、それじゃあ、私はヒステリックな女にされるの。誰かに「圭くんのお愛が足りなかった」とかあなたが言われるでしょ。ほら、特に久実とかに。それじゃあ、あなたがかわいそうだね。やっぱりあなたに殺してもらいたくない。私がね、こうやって手紙を書いているのは別にそれを言うためじゃないの。そのくらい圭のこと愛しているんですって伝えたかったからね、「私死ぬと思う」って書いてやった。

あ、でもやっぱり、私は死ぬの。最近ほんとそう実感するわ。あと、二年後くらいにあなたと結婚して、子供ができて、うん、やっぱり男の子がいいな。二人ほしい。二人とも男の子。男の子はけんかとかすごいみたいだけにぎやかでいいじゃない。デートで桜木町にいったとき、あなたは若い家族を見て、「子供なら女のほうがいいな」って言ってた気がするけど、だめ。私が娘に嫉妬しちゃうから。子供ができて私も今は今の仕事を続けて、そうね共働きね。でも、子供の顔見たら辞めたくなくなっちゃうかも。そしたら、圭、頑張っ！それからはあつという間なんでしょうね。子供が中心の生活になって。できれば二人ともいい大学にいつてほしいな。ううん、

いけると思うの。だって、私たちの子供よ。きっと優秀なはず。それから大学を出たらもう就職しちゃうでしょ？ってことは、また二人の生活。そのころには五十代になっているのかしら。もうすっかりおじさんとおばちゃんでしょうね。でも五十代でも絶対に愛し合ってるわ、私たち。街に買い物に行っても手をつなぐんですもん。

第二の青春が始まるの。それから、しばらくして息子たちが恋人を連れてうちに挨拶に来るのよ。「このひとと結婚することに決めました。」って。あなたはどうぞせ顔で選んでしようけど。私はしっかりした子じゃないと許さないと思うの。だって、心配じゃない？掃除とか、洗濯とかできない子だったらどうするつもり？仕事で忙しいはずよ。もしも、いい子が見つかったら、結婚式があるのよね。なんだか、私、寂しくなってきたわ。泣いてしまいそう。大事な息子ですもん。でも、そうやって二人とも結婚して、どっちかは私たちの面倒をみてくれるのかしら。でも二人でどこか静かな、そうね、北海道なんかいいんじゃないかしら、そういうところに住んでゆっくりしたい気もするわ。そうだ、そのための貯金なんかも考えなくちゃいけないわ。うーん、それでね。それで、そこで私は死ぬのよ。眠るように死にたいわ。キスなんかで起こさないでね。「あなたといつしよに居ることができて幸せな人生でした」って手紙も書いておきたいわ。あなたはきつと泣くんでしょうね。もしかしたら、すぐに後を追いかけてくるかも。圭ちゃん、寂しがり屋だから。でもね、一人になるのが嫌だからって先に死んじゃダメ。私を一人にしないでほしいの。私は寂しいからってわけじゃないわ。あなたといっしょにいたいだけ。あなたがいなくなったら私の世界はなくなるのといっしょ。死んだも同然なの。

……ほら、すぐ死んじゃうでしょ？私。あなたとの日々を考える
とこれから先の人生がすぐに過ぎていつちゃう。そんなことを考えていて「死ぬ」って実感したの。

あなたのプロポーズを受けてからこんな考えの繰り返し。もう何回死んだことか分からないわ。

なんか儚いわね。そう思うけど、楽しい時間ってあつという間に過ぎるじゃない？遊園地にいるような、ね。それなのよ、多分。幸せすぎて死んじゃうの。だから、あなたが私を殺すも同然ね。返事をしていい？私をすぐに殺してちょうだい。

こんな返事でいいのかな。とにかく圭、私を幸せにして。

一九九

二年六月十日

泉より

x

押し入れを整理してこんな手紙を見つけた夏樹は笑ってしまった。ごめんね、男の子じゃなくてと。

年末の大掃除で家の中に母のかける掃除機の音が響いている。と、思うと、いつもの夫婦げんかが始まった。夏樹は少し飽きたようにそれを聞いていたが、手紙を丁寧な封筒に入れてある瞬間に、ふと「けんかするほど仲がいい」なんて言葉を思い出した。

(後書き)

前にも投稿したんですが、退会してしまつてまた投稿しました。これを書いたときは太宰にハマつていてちょっとマネしてみました。でも、こう考えると人生なんてあつという間だなと思います。そういう意味で「盧生の夢」の考えも持つてきています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7256q/>

返事

2011年10月8日18時10分発行